

# かたりべ 39

豊島区立郷土資料館だより



現巣鴨三丁目より中山道をのぞむ

## 四月三日の空襲直後の写真を発見!

七月二十九日開館をめざした特別展「戦争と豊島区」の準備に忙殺されていた某日、一本の電話が入りました。

「もしもし、こちら広報課ですが、戦後50年記念刊行物の情報収集の過程で、空襲直後の巣鴨の写真をお持ちの方がいらっしゃるのがあったのですが…。」

「えっ!、な、なんと…!」

「今度取材にお伺いするのですが、ご一緒にいかがですか。」

「行きます!絶対行きます!必ず行きます!何があっても行きます!」

というわけでお伺いしたのが、仁科雅夫さんのお宅(巣鴨三丁目)です。戦後まとめられたアルバムの中の五枚、その他に一枚の計六枚の写真を拝見しました。いずれも一九四五(昭和二〇)年四月一三日の東京北部大空襲の翌朝に撮られたもので、現時点では豊島区に残る空襲直後の唯一(六?)の写真です。残念ながら印刷画紙の劣化が著しく、変色していますが、当時の状況を伝える大変貴重な写真資料です。

資料館では、これらを複写して、保存させていただくことにしました。

もちろん、六枚とも特別展の「戦場、本土に飛ぶ」のコーナーに展示中です。(伊藤)

# 特集 新館設立に向けて XIII

## 博物館の仕事つてナニ？ (7)

### 集団学童疎開をたずねて

まぼろしの十二沢スキー場／

一九九二年八月の暑いある日、筆者は長野県の志賀草津有料道路の山ノ内町側料金所の近くの山の中を歩きまわっていた。何をしていたかというと、「竜宮公園」と「十二沢スキー場」とを探していたのである。いずれも戦時中、集団疎开学童として山ノ内町（当時は平穂村）でくらししていた小学生（国民学校学童）の書いた日記に出てくる名前である。事前に現地の方（当時の疎开学寮である旅館の方）に手紙でおたずねして、大体の位置は確認していたのだが、今の地図には出ていないし、目当てになるようなものもなく、いざ場所を確定しようとする見当がつかない。同じ資料中のものでも、丸池とか地獄谷、天川神社のように今でもあるもの（前の二つは観光名所だ）や、駐車場など跡地が明確なものはいいのだが、「竜宮公園」と「十二沢スキー場」にはまいてしまった。

実は「ひしや」さんという旅館のご主人（代々「ひしや寅藏」を名乗られる）に直接お聞きす

ることになっていたのだが、それがお仕事の都合でこの日の夕方の約束になっていたので。いくらかでも効率をよくするため、昼間からカンで探していたのである。

それでも「竜宮公園」は料金所のそばにある運動場ではないかと見当をつけ、「十二沢スキー場」は、この近くにあるスキー場は上林温泉スキー場しかないということで、とりあえず自己満足した。

「ひしや」さんとの約束の時刻にはまだ、少し間がある。近くの志賀山文庫という文学関係の資料展示施設に入り、喫茶室でノドを湿すことにした。やや落ち着いて、あらためて地図などを見直すと、どうも自信がない。そこで志賀山文庫の方に聞いてみることにした。すると、やはり「竜宮公園」の方はまだしも、「十二沢スキー場」の方はまったくの見当違いをしていることが分かった。この後、「ひしや」さんでも確かめることができたが、「十二沢スキー場」は現在では有料道路によって寸断され林の中に没して昔日の面影はまったくないのである。

そして上

林温泉スキー場という



のは戦後、新しく造られたスキー場で、「十二沢スキー場」とは関係がないのであった。

（「竜宮公



「十二沢スキー場」跡

園」のほうも思い込んだ場所とはやや離れていた。翌日、あらためて「十二沢スキー場」跡の森をかすかに残っている道を小屋などを目当てに歩くことになった。こうして確定した場所や撮影した写真が、郷土資料館調査報告書「豊島の集団学童疎開資料集(4)」(一九九三年)で使うことができたものである。

これまで六冊を出した調査報告書『豊島の集  
団学童疎開資料集』は編集の過程でかならず、  
こうした現地調査を行なうようにしている。文  
献をそのままおこしても意味は多いのだが、文  
中の地名や施設名の位置を明らかにして、現況  
写真をそえることによって一層のリアリティを  
出そうという目的である。

集団学童疎開というのは五〇年前の、しかも  
長くて一年三か月間のことである。体験者の記  
憶もこうした細部にわたると定かではない。し  
かし、こうした地名などは、彼らの疎開中の生  
活範囲を知るの上では大変重要なものなの  
だ。どのような距離の、どのような地形を、通  
学したり行軍したりしていたのか。「十月十五  
日／今日は五時に起きて天川神社に参拝しまし  
た。明日は志賀高原だ。」という記述は学寮と天  
川神社との位置関係がわからなければ、得ると  
ころは半減するだろう。現況写真も使い方に  
よっては想像力を喚起して追体験に近い役割を  
果たすことも不可能ではない。実際の資料集の  
編集がどれほど効果的にできているかは大変、  
心許ない限りではあるが、可能性を追求する価  
値は十分ある。

### 博物館の仕事の広さと深さ

豊島区立郷土資料館で集団学童疎開の調査を

始めたのは一九八六年にまで、さかのぼる。翌年  
の夏期特別展に向けての企画が最初である。集  
団学童疎開を取り上げたのは戦争体験の発掘継  
承をテーマとした企画の一つとしてで、これほど  
長く継続して行なうとは当初から考えていたわ  
けではなかった。

それが続いてい  
るのは、何といっ  
ても体験された  
方、資料を提供し  
てくださった方  
の疎開についての思  
い入れの深さ、そ  
してその資料の内  
容の豊富さ、にあ  
る。集団疎開は一  
九四四年夏、政府  
や東京都の政治的  
施策として戦争の  
継続・勝利を目的  
にとして半ば強制  
的に推進されたも  
のだが、敗色濃厚の当時の日本の状況では良く  
も悪くも画一的な施策は実行されるべくもな  
かった。そのためもあって、集団疎開の実情は  
時期・土地・諸環境によって、千差万別の態を示



十二沢でスキー(疎開学童の日記から、「豊島の集団学童疎開資料集(4)」参照)

し、その受け取り方も人によって大きく異なる  
ことになる。豊島区でも三郷・七〇余市町村、三  
〇〇を越える学寮、それぞれ固有の中身がある。  
学芸員としては調査にもとづき、一定の視角  
や問題意識から、展示や研究を行なう。しかし、  
利用者の方々に多くの歴史資料(情報)を提供  
して、自由で自主的でも独善的でない歴史  
意識を造り上げる一助とするということが歴史  
系博物館の大きな仕事である。そうした観点に  
立てば、できるだけ生の資料を網羅的に利用で  
きるようにすべきであると考えたのである。

もとより、資料館で扱うべきテーマは無数に  
あり、戦争(アジア太平洋戦争)に限っても、  
空襲・徴兵・勤労動員などなど、テーマは多い。  
学童疎開に限っても集団疎開だけではなく、縁  
故疎開・疎開残留(東京への残留)と三者一体  
としてとらえなければならぬ、との提起が  
あって久しい。郷土資料館としてもテーマ拡  
大の模索は始めている。しかし、そのことは従  
来のテーマの調査を徹底させることと矛盾する  
ことではない。調査・研究の広さと深さとは成  
果において相関する。このことは集団学童疎開  
に限らず、従来、特別展その他で取り上げたテ  
ーマの継続的追求ということでは普遍的な問題で  
ある。

# 戦争と豊島区

10月1日(日)まで開催中

“この夏、あなたも戦争について  
考えてみませんか。”

郷土資料館では七月二九日から特別展「戦争と豊島区」を開催しています。戦後五〇年ということもあり、豊島区と戦争との関わりについて今年も考えてみよう企画です。

夏休みということもあり、また、他の施設でも「戦後五〇年」に関する展示や催物が開催されていることもあって、多くの方々が見学に訪れています。

入館者数も順調に伸びており、開館十五日目で一〇〇〇人を突破しました。まずまずのスタートです。

今回は、監視員の方々につけていただいている「監視員日誌」から、展示室の雰囲気をご紹介します。\*

七月二九日 ☆初日でしたので九時より一〇時二〇分まで伊藤・青木両学芸員の解説がありました。☆焼けた天井板寄贈の伊藤章氏御夫妻来館「お役にたててうれしいです。展示して下さいてありがとうございます。立木があつたので家が残りました。」☆北浦和在住〇〇〇〇さん六〇代、女学校の時、大阪府で昭和二〇年六月におきたグラマン機の爆弾による悲劇を語って下さった。

七月三〇日 ☆池三（池袋第三国民学校）三年生で疎開、お孫さんと共に来館。お孫さん達に

説明。子どもたちに戦争の悲惨さを教えるのはむずかしい。☆豊島区在住の〇

〇さん親子（男の子中

一・女の子小学生）三人。父親が

全体を熱心に説明。子どもにとってよく理解できたのは飯台のコーナーと焼夷弾の筒であった。\*

八月一日 ☆今回の展示の中では、岡野誠氏の資料がインパクトが強かったようで、パネルの前で立ち止まっている見学者が大勢いた。

八月二日 ☆夏休みのせいも、高・大生の来館者が多く、熱心にメモをとっていた。レポート提出用？。

八月三日 ☆〇〇〇〇さん西池袋在住の方、山田温泉に疎開していた。池袋第七国民学校の出身。疎開生活の思い出を語ってくれた。（以下内容を詳細に記入してありました。）

八月四日 ☆特別展協力者の方、当時は軍の航



「進め、戦いの生活へ」のコーナー

空機（通信機）関係に所属し、自身も爆撃で負傷され今だに足の痛みがあるそうです。

八月五日

☆一〇時の説明会、

最初一名だつたがすぐ六名になり、伊藤学芸員の説明に熱心に耳をかたむける。☆南



疎開学寮イメージ復元

京大虐殺

の写真を見た子供「この人悪いことした人？」母親らしき人、黙ってそつと移動させた。☆「特別展はいつ迄ですか」、「一度ではとても見られない、又来ます。何度か来なくては…」とおっしゃる方がだいたいいらっしゃいます。

八月六日 ☆午後二時より藤原彰氏による記念講演会開催。テーマは「日本の戦争責任とアジア諸国」☆千葉市の〇〇さん、小六の時仰高国民学校から縁故疎開で福井へ行った。疎開先で中学に入り稲刈りさせられた。☆藤原先生の白熱した講演で、終了時間が大幅にオーバーし四時四五分にもなった。

八月八日 ☆テレビ東京の撮影班来館。☆芳泉寺（上田）へ学童疎開したという男性、「おやすみなさい」の写真をよくよく見て「確かこの辺にいたんですが、皆イガグリ頭でどれが自分だか分からない」と話していました。

八月九日 ☆写真提供者の高井友子氏来館、富山県滑川市より上京。その談話：長野県山田温泉に集団疎開の折、火災発生にあい、高井さんの隣で寝ていた方が焼死されたそうです。昨年五十年忌が行なわれ現地まで墓参に参加。

八月一〇日 ☆当時新潟在住の女性の話し：当時のセーラー服は布地節約の為三角衿が多かった。しかも全員に配布されずくじ引きで当たった人だけがもらえた。

八月一日 ☆弟さんが仰高国民学校三年生（ご自身は中学生だった）で強制疎開し、お父さんが肉などを差し入れた。食事が余りにもひどいので弟さんは連れて帰った。どうしても当展が見たくて来た、と話してくれました。

八月二日 ☆稲毛（千葉）の〇〇さん（六〇歳代男性）長野県松本へ疎開。二〇年三月松本に爆弾が落とされた。終戦の翌日八月一日グラーメンがたくさん来た。「今、戦争を知らない世代が多いので年に二―三回展示してほしい」とのこと。

八月一三日 ☆親子連れ、午前一組・午後九組

親が熱心に見学している割には子供が無関心。八月十五日 ☆軍隊経験者の来館者がそれぞれ入隊当時の話しに花が咲く。☆今日は五〇回目の終戦記念日。☆捕虜に与える食糧がなかったので皆殺した。腹がへってあばれる者もいた。戦争は死ぬか生きるかの戦いだった。（八一歳男性）☆お盆休みのせいか、親子連れやご夫婦でみえた方達が多かった。

八月一六日 ☆上林ホテルに疎開した高田第五国民学校の生徒の話：ホテルの前の堀は鯉の養殖場だと思うが、疎開中に一度しか鯉は口にすることがなかった。食事はいつも麦飯に野沢菜の味噌汁、きやらぶきの佃煮だけで蛋白源となるものはなかった。今ではきやらぶきは二度と食べたくないと思っている、とのこと。

以上、「監視員日誌」の中の記事からいくつかをご紹介します。

そろそろ、開催期間の半ばにさしかかりました。これからも一人でも多くの方に来館いただき、現在までに伝えられているモノを通して戦争というものを考える場としていただきたいと考えております。

会期は一〇月一日までですので、お知り合いの方々と一度ではなく、二度・三度とお出で頂ければと思います。

（伊藤）

## 連載 一点の資料から

### 《その13》

## アール・ヌーヴォー調の装飾タイル

豊島区立雑司が谷旧宣教師館は、雑司が谷壺園の近くにあり、一九八九（平成元）年に一般公開されて以来、多くの来館者が訪れています。

建物は、一九〇七（明治四十）年に建てられたといわれています。木造二階建て、全体のデザインはシングル様式といい、十九世紀後半のアメリカ郊外住宅の特色を写しています。ここには、アメリカ人宣教師のマツケーレブさんが自宅兼布教所として一九四一（昭和一六）年まで住んでいました。建物の設計者は特定できていません。建物の設計図や仕様書も残されていませんが、大工の棟梁は北区西ヶ原の藤崎さん、そのためにしようか、全体的に洋風ですが、天井が割竹を使用した市松模様になっている等、部屋内部の随所に和風が顔をのぞかせています。室内は全体的に質素な感じですが、かつて応接間として使用していた一階の部屋の暖炉には、他にない雰囲気があります。専門家の方の話によれば、この暖炉は意匠的にも技術的にも非常に優れているものということです。暖炉の周囲にはケヤキ材の前飾り、その内側には鋳物の金物がはめ込まれ、焚口前の火床は石製です。

そして、この暖炉を華やかにさせている点は、焚口の左右両側に4枚ずつはめこまれたタイルです。タイル一枚の大きさは、縦十五・二×横十四・二cmです。濃い暗緑色の地に柿色と赤色で着色された非常に鮮やかなものです。これは、蘭の花をアール・ヌーヴォー調にデザインしたヴィクトリアン・タイルといい、輸入品であろうと推察されています。この時代、美術界ではアール・ヌーヴォーの様式が最盛期を迎えていました。このタイルには、その影響が表れているというわけです。

この雑司が谷旧宣教師館（豊島区指定有形文化財）が建てられた時期、日本全体では各地に文明開化の象徴ともいえるべき多くの近代建築が造られていました。ということは、このタイルが量産されたものであれば、雑司が谷以外の地域の建物に使用されていても不思議ではありません。建物の歴史的背景を調べている時、区内にお住まいの多見さんから一枚の写真を見せただけ、驚きました。函館市にある「旧函館区公会堂貴賓室寢室」（明治四十三年建築）の重要文化財・公開の暖炉の装飾タイルがまさにこのタイルと同じなのです。場所は北海道

です。また、『日本タイル博物誌』を見ると、岩手県の旧第九十銀行本店（明治四十三年建築、盛岡市指定有形文化財、現いわぎんリース・データ（株）会議室）のものとも同じなことがわかりました。ここでは、紙面の都合上、双方の写真掲載できませんので、このことは別の機会に詳しく紹介したいと思っています。

このように、タイルは、地域を越えて、その時代を伝える「かたりべ」となっています。新しい時代の到来を告げるタイルを、往時の職人さんがどのような気持ちで扱い、建物に生かすことを考えたのでしょうか。秋の一日、この暖炉のまえで、そのようなことに思いをめぐらしてみてはいかがでしょうか。（福岡）



雑司が谷旧宣教師館「居間」(雑司が谷1-25-5)

## 新連載

# 豊島をよべる

## 《その2》

# 東京土木史に残る千登世橋の誕生

豊島区には、文京区から新宿区へと区南部をほぼ東西に貫く目白通りと、新宿区から池袋駅前を通り北区へと縦断する明治通りが通っています。この両通りが交差する地点(目白一)に千登世橋という立体交差橋があります。今回は明治通りに架かるこの橋を探ってみましょう。

千登世橋は昭和八(一九三三)年二月に竣工(着工は七年一月)した橋長約二八メートル、有効幅員一八・二メートルの一径間鋼ヒンジアーチ橋で、東京で最初の立体交差橋といわれています。橋名の由来は、明治初年よりこの地が高田千登世町(着工当時は高田町大字高田千登世)と呼ばれていたためと思われまます。

千登世橋は、明治通りの脇を通る都電荒川線に架かる千登世小橋と接しており、橋の東南角には昭和九年一月建立の來島良亮記念碑があります。この碑の上部にはシャベルと鑿を持った二人の工事労働者のブロンズ像、本体には來島良亮の肖像レリーフと業績を記した碑文、台座には環状道路図のレリーフが配されています。來島良亮(一八八五—一九三三)については、碑文に「昭和二年東京府土木部長二補セラル居ルコト六年力ヲ都市計画ノ諸事業河川港

灣ノ改修府県道ノ改良ニ致シ業績顯著ナリ環状道路ノ如キモ亦君ノ勞苦ニ負フ而多シ」とあり、來島が当時土木部長として環状道路(明治通り)と千登世橋の架設に尽力したことがわかります。「明治通り」の名称は、東京日日新聞社が昭和七年一〇月の東京市域の拡張を記念して一般公募で決めたのですが、明治通りに関する興味深い資料に、東京府発行の『東京都市計画環状道路改修工事報告書』(昭和八年一月)があります。

それによ

れば明治通りは、放射道路とともに

に大正一〇

(一九二二)

年五月東京

都市計画街

路改修事業

として決定

され、品川

八ツ山(現

品川区北品川)を起点とし、旧東京市に接近する外郭を経過して砂町(現江東区南砂)にいた



完成直後の千登世橋(黒澤勝氏提供)新宿方面から池袋に向かって上り坂となる。街路樹はまだない。

る路線(幅員二二間〇約二二メートル)として、昭和八年にはほぼ完成しました。

目白通りとの交差部分については、目白通りが「目白台の鞍部」を通過する尾根道であるため、本来ならば明治通りは神田川から約二二メートルの高低差がある目白台まで一気に急坂を上り、目白通りと平面交叉するはずでした。

しかし東京府は、この両通りが東京山の手の住宅地としての発展と、神田川沿岸の工業地の発展にとって重要な路線であるとの認識から、将来の交通量の急増に対処するためと坂道の勾配を緩和するために、切り通しにして「高低交叉」とする方法を採ったのです。そして幅員八間の連絡道路(ランプ)を王子電気軌道(現都電荒川線)の反対側に一線設け、橋梁の前後二か所に歩行者用階段を設置することとしました。

この「道路高低交叉工事」は、失業者救済の東京府直轄工事として当時の土木技術の粋を集めて施行されたわけですが、東京府が「特に美観に注意を払った」と自負した千登世橋は、土木史的価値の高い橋として現在「東京都の著名橋」に指定され、一九九四年の整備工事を経た今も竣工当時の面影をとどめています。(横山)

〔参考文献〕伊東孝『東京再発見』岩波書店

## 郷土資料館なんでもQ&A

**Q** 先日、大河ドラマの「吉宗」を見ていたところ、吉宗のお守り役として豊島半之丞という人物が出てきました。この人は、豊島区となにか関係があるのでしょうか。

**A** テレビで活躍した紀州藩士の豊島半之丞は、本名を豊島朝治といひます。中世に豊島区周辺で活躍した武蔵武士の豊島氏とは、直接の関係ではないにしても、つながりがあります。朝治の曾祖父の胤倫は、本来は土岐氏を名のり、常陸国江戸崎城（茨城県江戸崎町）主でした。しかし、佐竹氏や豊臣秀吉と対立して敗れてしまいます。彼は、近くの布川（茨城県利根町）を本拠とする布川豊島氏から妻を迎えてい

ました。布川豊島氏は武蔵豊島氏の内、千葉氏に仕えた一族であると考えられています。

この布川豊島氏は北条氏の家臣でしたが、北条氏滅亡後に徳川家康に仕えて旗本になりました。胤倫の子の朝房は、豊島氏の援助を受けて家康に会い、取り立てられて母の姓の豊島を名乗るようになります。彼はその後、家康の一〇男である初代紀州藩主徳川頼宣に仕えました。

朝房の子の朝清も、紀伊徳川家に仕え、その子朝治は、ドラマに出てきたように吉宗のお守り役となるわけです。朝治は、吉宗が將軍になった際、吉宗の子の家重のお守り役になるとともに、本来の姓である土岐に戻しています。

現在郷土資料館では、「豊島氏編年史料Ⅲ」（近世史料編）に向けて、この紀州藩士豊島氏についての調査・研究を行っているところです。

（小林）



## 編集後記

暑い暑い夏もようやくやく過ぎ去ろうとしています。かたりべ39号をお送りいたします。

現在開催中の特別展「戦争と豊島区」には毎日多くの方が見学に訪れ、その反響の大きさに館員一同驚いております。特に大学生の見学が多いので不思議に思っていたところ、大学で講義を受け持っている当館職員A氏が、見学リポートを夏休みの課題に出していたことがわかり、皆で納得した次第です。いずれにしても、今回の展示会が「戦争」について少しでも考えるきっかけとなれば幸いです。

また、一九九四年度の当館の活動報告が『年報』第10号として刊行されました。博物館に関心のある方、将来学芸員を希望されている方に差し上げますので、ぜひご利用ください。

◆展示替えと資料燻蒸のため、10月2日～16日まで臨時休館とさせていただきます。

かたりべ

No.39

1995年9月20日

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話03-3980-2351

豊島区広報印刷物L30-07-073  
本紙は再生紙を使用しています